

## SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	川上泰輝	学校名	北九州市立大積小学校
実施学年	6年	教科	国語科
単元名	私たちにできること		

### 《学びを深めたいポイント》

本実践では、提案文を書くため、調べたり考えたりした内容のうち、どの方法を提案するか考える授業である。本時では、①どのような方法があるか。②実現可能な方法はどれか。以上2点の視点で話し合いを進めていった。問題を解決する提案のために、以上2点の視点を与えたことで、自分の考えを伝え、よりよい提案内容を決める議論を活性化していくことができると考えた。

そして、「書くこと」の指導において、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確に表現する力を身に付けることができる授業展開を目指したいと考えた。

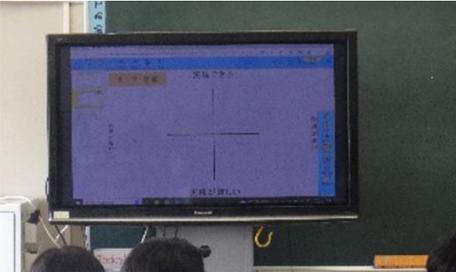
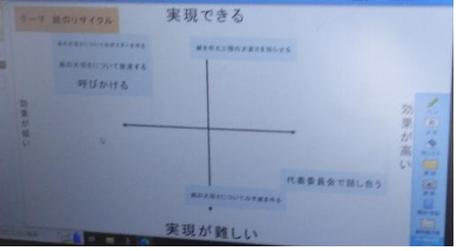
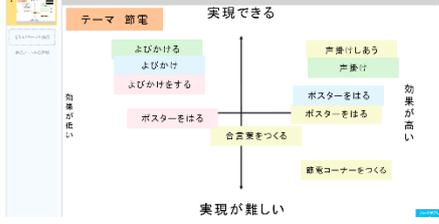
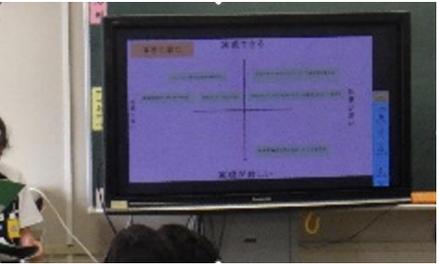
### 《SKYMENU 活用のポイント》

本時までの間に、調べるテーマについて現状や原因を考えてきている。そこで前時までに、課題を解決するために、資料置き場にある付箋を活用しながら個人で考えた提案を書き、どこに当てはまるか自分なりの考えで移動しておく。

本時では、グループワークを使い、考えを共有し、実現できそうな提案を決めていく。その際に、発表ノートを活用し、個人ごと付箋の色を変えて記入していくことにより、個人で考えた提案を可視化しやすくした。それぞれが考えた意見を基に議論する場面では、誰がどのような意見をもっているのか、グループワークを使い、1枚のノートに付箋を集めて表示し、意見を共有できるようにした。児童は、それぞれが考えた意見に耳を傾けながら、提案する内容を決めていった。振り返りの場面では、どのような話し合いが行われたのか、グループごとの画面をTVに映し、説明を行った。他のグループと比べることで、他のグループの考えの変化を確認でき、提案の実現性や提案内容を行った場合の効果について、根拠をもち具体的に考えが深まっていけているか振り返る姿が見られた。

### 《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <p>めあて グループで提案するテーマの現状と問題点を確かめ、その解決方法を考えよう。</p>		

<p>展開</p>	<p>2 班で各自の情報を持ち寄り、提案するテーマの現状と問題点を明確にする。</p> <p>(1) 本時で行う話し合い方を共有する。</p> <p>(2) 各自で考えた具体的な解決方法を入力する。</p> <p>○ 発表ノートのグループワーク機能を使用して、各自が考えた解決方法を「実現できるか」「効果が高いか」という観点で提案内容を話し合わせる。</p> <p>○ 提案内容は、提案文の説得力を増すために2~3点挙げるようにする。</p> <p>(3) 各グループでどのような話し合いになったか全体で共有する。</p>	    	<p>○ 前時で行った発表ノートを開いておき、どのような内容を学習したか振り返る場面で活用する。</p> <p>○ 教師が作成した発表ノートを TV 画面に映し、説明をする。</p> <p>○ 説明をするときには、画面ロック機能を使用し、TV 画面を見るようにする。</p> <p>○ 前時で各自が書いた付箋(発表ノート)をグループワークで共有し、グループワーク用のページに付箋を移していく。</p> <p>○ 発表ノートのグループワーク機能を使用して、グループで同時に操作していく。</p> <p>○ TV に各グループの画面を映し出し、どのような話し合いになったか、どの内容に決まったかを発表する。</p> <p>○ 説明をするときには、画面ロック機能を使用し、TV 画面を見るようにする。</p>
<p>まとめ</p>	<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 振り返りを書く。</p>		

《実践を振り返って》

今までであれば、調べた内容を付箋に書き込み、グループで共有しながら話し合いを進めるといったことが多かったが、コロナ禍で話し合い活動が行いづらかったり、付箋の準備が大変だったりといった難点があった。「発表ノート」を活用して話し合いを進めていったことで、それぞれ考えたことを書きこみ、「これだと私たちだけでは難しいかもしれない。」「この意見は、みんなにもイメージしやすいと思うから入れよう。」など、どれにするかを画面越しに話し合うことができた。

グループワークを使い、考えを共有し、実現できそうな提案を決めていく際に、個人ごと付箋の色を変えており、誰の意見か分かりやすくなった。このことにより、教師も誰の意見か把握することができ、評価にも活用できた。また、提出ボックスに回収することで、時間内に作り終えることができなかったグループは、授業

終了後、完成次第提出していった。以前であれば、ワークシートを直接提出しに来たり、どのグループが出ていないか確認したりと手間があった。しかし、提出ボックスを活用することで、その手間を省くことができた。評価をする際にも、紙媒体だとかさばり、返却も時間がかかっていたが、提出箱への提出を継続的に行うことで、かさばらず、返却もすぐにできてしまうため、評価や返却の手間も省くことができた。